

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岐阜市立島小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒502-0911

岐阜県岐阜市北島7丁目6番12号

E-mail gisyo12@shima-e.gifu-gif.ed.jp

Website http://cms.gifu-gif.ed.jp/shima-e/

幼児児童生徒数 男子 366名 女子 306名 合計 672名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「ふるさと島を愛し、ふるさと島に生きる子」を活動テーマとしている。ESDを自分たちが生活する島についてもっと知ろうとする子、人々の姿に触れて見方や考え方(価値観)を広げて誇りをもつ子、よりよい島を目指して行動しようとする子の育成と捉え、地域に対する強い関心と正しい理解(知識)、よりよい生き方を求める見方や考え方(価値観)、仲間と共によりよい生活を築く行動力(行動力)の育成を目標とした。

具体的には、「えだまめ活動」、各学年の総合的な学習の時間、温かい心を届ける活動を柱に、①地域特産物(枝豆)に係わる活動、②各学年の総合的な学習の時間に係わる教育、③国際理解に係わる学習を行った。

① 地域特産物に係わる活動

島地区は輪中に位置し、長良川上流からの肥沃で水はけのよい土地を利用した枝豆の栽培が盛んである。消費者に安全・安心でおいしい枝豆を届けたいという農家の取組がある。

播種から収穫、販売までを実際に体験する中で、地域の特産を知り、農家の工夫や努力に気付くことや、互いに協力して活動を行うことややり遂げる喜び

を感じさせることをねらいとしている。多くの保護者、地域の方の協力を得てESDを地域に伝える活動にもなっている。

社会科と関連させ、3年生では「農家のしごと」で枝豆農家の工夫や苦勞を、4年生では「低地のくらし」で水との戦いの歴史や輪中ならではの生活を学習する。地域についての理解を深め、自分たちのくらしとの関わりがもてるようにしている。

② 各学年の総合的な学習の時間に係わる学習

学年別テーマは、今日的なテーマを踏まえつつ、学年の発達段階に応じた学習を実施し、「身近な事象から子どもたちの問題意識を耕す」「問題を解決するための活動を工夫し実行する」「やり遂げる喜び、人の役にたつ喜びを味わわせる」ことをねらいとしている。

3年生は、日頃関わりがある地域の公園に対し、自分達でできることとして花壇作りに取り組んでいる。4年生は、長良川環境（水質・生き物等）を調査する。5年生は、高齢者体験、校区の高齢者施設見学・交流を行い、高齢者が暮らしやすい街作りについて考える。6年生は、ユネスコ活動として、世界の子どもの現状について調べ、自分達にできることを考え行動している。

③ 国際理解に係わる学習

世界の子どもの現状を知り、自分達にできることを考え行動できる力をつけることをねらいとしている。

6年生が中心になり、全校児童に世界の子どもの現状を伝え、書き損じ葉書・文具を集め、岐阜県ユネスコ協会を通じ、枝豆収益金とともにカンボジアに寄付している。ユネスコ協会の方から、カンボジアの学校、文具を渡したときの様子等伝えていただいた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・「持続可能な開発のための教育 (ESD) とユネスコスクール」
- ・「今日よりいいアースへの学び ESD QUEST きみが世界を救う！」
- ・「ESD パスポート」(岐阜県ユネスコ協会)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

島小校区の豊かな物的・人的環境を生かすため、教科と総合的な学習の時間で、意図的に地域教材を位置付けたカリキュラムの作成をしている。島校区の特色について、自然や歴史、社会・文化の3分野から洗い出し、地域教材を生かした年間計画を作成した。教科(生活科、社会科)では、学習指導要領の各学年の目標と内容に照らし合わせながら、取り上げたい地域教材を選定した。総合的な学習の時間では、栽培活動と学年別のテーマの2本立てとし、学年の発達段階と活動の系統を考慮しながら編成した。栽培活動では、全校で島特産の枝豆を栽培する「えだまめ活動」に取り組んでいる。「知識」「価値観」「行動力」を意識して学習や活動のねらいを明確にして単元指導計画を作成している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

校内でユネスコスクール担当を決め、各学年(特に6年生)と連携して活動を行っている。学習指導部で各学年の生活科・総合的な学習の時間の学習内容交流をし、よりよい活動にするため検討の場を設けている。また、本校のESDについて、校内で研修を実施している。4月に転入職員のための研修を行い、本校のESDへの理解とともに活動がスムーズに引き継がれるように、学年後半には外部での研修等からESDについての報告を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

年2回全保護者を対象に学校の活動等への評価をアンケート(記述式)で行っている。地域の人材を生かし、一緒に活動しながら意義を伝えていただいたり、活動方法を示していただいたりすることに好意的な意見が多い。保護者の協力が必要な場合に積極的に参加をしているという保護者も多い。課題としては、ESDについて分かり、この活動でどのような力を付けていきたいかを理解している保護者は少ない。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

活動や学習を実施する際、児童には学習の課題としてねらいを伝えていくが、保護者にも学校だより、学年通信を通じてESDの活動や学習のねらい、学習内容を伝えている。ESDのねらいを理解したうえで、学習に参加していただいたり、協力をしていただいたりしている。「えだまめ活動」では、播種の仕方を教えていただいたり、収穫後のバザーに協力していただいたりしている。学年ごとの活動でも、進んで協力していただいている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項2-3に対応

今年度、中部大学で行われた「東海地区ユネスコスクールフォーラム グッド・プラクティス校交流会」で発表する機会を得た。この機会に本校のESDについて振り返り、これまで実践してきた内容をまとめた。その際に、本校のESDについて活動や学習のねらいを明確にして取組を行うことや、学年ごとの活動の系統性について、岐阜大学の先生から、アドバイスをいただいた。追究が連続発展する教育課程の編成をさらに工夫したい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

中部大学で行われた「東海地区ユネスコスクールフォーラム グッド・プラクティス校交流会」に参加をさせていただいた折、幼稚園・中学校・高等学校・特別支援学校で行われている ESD について話を聞き、交流する機会をいただいた。また、パラグアイ・フィンランドの ESD についても知ることができた。この会の後、職員にも伝えることができた。しかし、特定の学校との交流等はできていないのが現状である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

「温かい心を届ける集会」について
この活動は、6年生の「ユネスコ活動」の一環として実施している。自分たちにできることとして、6年生がカンボジアの子どもの生活や学習の様子を全校児童に伝え、文房具や書き損じ葉書を送ろうと呼びかけ、岐阜県ユネスコ協会を通じ、カンボジアに届けていただいている。6年生が自分達にできることとして考え、行動したり、カンボジアの現状、特に子ども達の様子、学校生活を全校児童が知ったりする活動になっている。多くの保護者、子ども達の協力で活動している。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

島小校区の豊かな物的・人的環境を生かすため、平成30年度も教科と総合的な学習の時間で、意図的に地域教材を活用して学習を進めたい。総合的な学習の時間では、栽培活動と学年別のテーマの2本立てとし、地域を正しく知る、知る方法を身に付けることを大切にしていける。課題をもち解決するために体験的な活動を重点とする。学習する中で、自分たちにできることを行動できるようになってきたが、さらによりよい生活のために、誰かの役にたとうと行動する力を伸ばしたいと考えている。また、他学年との活動とのつながり、6年間を通じてどんな力をつけるのかといったカリキュラムの系統性を考えていきたい。